


1. 事業説明シート(1)

(区分) **国補**・県単

事業名	道路事業〔緊急道路整備改築事業(国補)〕	事業箇所	都留市つる四丁目～五丁目	地区名	(主)都留インター線 (都留インターフル化)	事業主体	山梨県/NEXCO中日本 都留市
(1)事業着手年度	H17年度	(2)事業期間	H17年度～H23年度	(3)完了後経過年数	5年	(4)総事業費	2,378百万円
(5)事業着手時点の課題・背景				(8)事業位置図等			
<p>主要地方道都留インター線は、都留市つる一丁目地内の国道139号との接続点を起点とし、都留市内を通過して同市つる五丁目地内において中央自動車道富士吉田線都留ICに接続する幹線道路である。</p> <p>都留インターは、大月方面への出入りのみが可能なハーフインターであったため、中央自動車道富士吉田線の有効活用を図り、これと並行する国道139号の渋滞解消や地域の活性化などに資することから、富士吉田方面への出入りも可能なフルインターに整備することとした。</p>							
(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果							
<p>(事前評価：H16)</p> <p><input type="checkbox"/> 主要目標 生活圏中心都市・拠点機能へのアクセス向上</p> <p><input type="checkbox"/> 副次目標 なし</p> <p><input type="checkbox"/> 副次効果 緊急時の避難・救助機能の確保</p>							
(7)整備内容(目標達成の方法)							
<p>都留ICのフルインター化 富士吉田方面への出入りランプの付加(2ランプ→4ランプ)</p>							

2. 評価シート（1）

(1) 事業貢献度 〈 <input checked="" type="radio"/> 良 <input type="radio"/> 不良 〉	(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 〈 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 〉																																
<p>(理由) 本事業により、都留市（都留IC）から富士吉田市（河口湖IC）へ向かっての中央自動車道の利用が可能となり、大幅な時間短縮による利便性の向上が図られた。 また、医療や防災時における高速性の確保や国道139号混雑時の代替路として、地域の住民が安全・安心して暮らせるまちづくりに寄与している。</p> <p>①主要目標 生活圏中心都市・拠点機能へのアクセス向上</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">指 標</th> <th style="width: 35%;">着手時点数値等</th> <th style="width: 35%;">評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自動車交通量※1</td> <td style="text-align: center;">4,300台/日</td> <td style="text-align: center;">5,335台/日※4</td> </tr> <tr> <td>混雑時走行速度※2</td> <td style="text-align: center;">22.8km/h※3</td> <td style="text-align: center;">23.2km/h※4</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">※1 都留インター ※2 国道139号 ※3 H17センサス ※4 実測値</p> <p>口評価時点の数値に対する評価 都留市街地から富士吉田市街地までの約15Kmの区間において、国道139号を混雑時に利用した場合は35分以上かかっていたが、中央自動車道富士吉田線を利用することにより約20分となり、15分以上の移動時間短縮が図れた。 また、アクセス向上によりインター利用の交通量が増えた。</p> <p>②副次目標 なし</p> <p>③副次効果</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">項 目</th> <th style="width: 80%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緊急時の避難・救助機能の確保</td> <td>第二次緊急輸送道路の整備</td> </tr> </tbody> </table> <p>④その他の事業効果の発現状況 都留市・河口湖周辺の観光拠点と地域資源を結びつけ、回遊型観光地の形成など地域の活性化に寄与している。 産業面においては、都留市街地から東名高速道路御殿場インターまで65分以上かかっていたが約50分となり、東海地方への製品の速達性や定時性が確保され、物流の効率化に寄与している。 また、移動時間短縮により、重篤患者の致死率低下に寄与している。</p>	指 標	着手時点数値等	評価時点数値等	自動車交通量※1	4,300台/日	5,335台/日※4	混雑時走行速度※2	22.8km/h※3	23.2km/h※4	項 目	内 容	緊急時の避難・救助機能の確保	第二次緊急輸送道路の整備	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">項 目</th> <th style="width: 30%;">着手時点の計画</th> <th style="width: 50%;">事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td style="text-align: center;">2,000百万円</td> <td style="text-align: center;">2,378百万円</td> </tr> <tr> <td>工 期</td> <td style="text-align: center;">H17~H21</td> <td style="text-align: center;">H17~H23</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td style="text-align: center;">1,990百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td style="text-align: center;">6,510百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td style="text-align: center;">3.27</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">3.09</td> </tr> </tbody> </table> <p>(要因変化の分析) 〈総事業費〉 ・地元との協議により、夜間通行車両の影響を抑えるため、遮光壁設置工事を増加したため。 ・埋蔵文化財調査を実施したところ、想定以上の埋蔵物が発掘され、調査に費用を要したため。 〈工 期〉 一部において用地交渉が難航し、用地取得に想定以上の時間を要したことによる。</p> <p>③事業実施による環境の変化</p> <p>①自然環境への影響 盛土法面を緑化することにより自然環境に配慮した。</p> <p>②生活・居住環境等への影響 都留市街地から富士・東部小児初期救急センター（富士吉田市）などの救急医療施設への高速性（約15分以上の短縮）が確保され、安全・安心・快適に暮らせるまちづくりに貢献している。</p> <p>③環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合） なし</p> <p>④社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</p> <p>①社会経済状況の変化 なし</p> <p>②関連計画・関連事業の状況の変化 なし</p> <p>③事業環境等の変化 なし</p>	項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	2,000百万円	2,378百万円	工 期	H17~H21	H17~H23	経済効率性	費用	1,990百万円	便益	6,510百万円	B/C	3.27			3.09
指 標	着手時点数値等	評価時点数値等																															
自動車交通量※1	4,300台/日	5,335台/日※4																															
混雑時走行速度※2	22.8km/h※3	23.2km/h※4																															
項 目	内 容																																
緊急時の避難・救助機能の確保	第二次緊急輸送道路の整備																																
項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																															
総事業費	2,000百万円	2,378百万円																															
工 期	H17~H21	H17~H23																															
経済効率性	費用	1,990百万円																															
	便益	6,510百万円																															
	B/C	3.27																															
		3.09																															

評価シート（2）

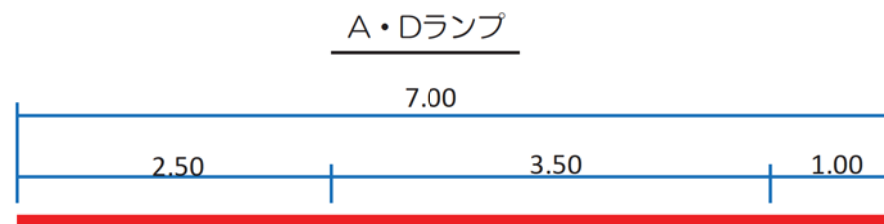
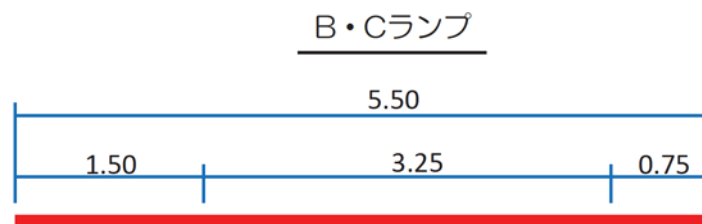
<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈 有 ・ 無 〉</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈 有 ・ 無 〉</p>
<p>(理由) 評価シート（1）により、評価時点において通行車両の円滑な通行が確保され、生活圏中心都市間のアクセス機能の向上が図られるとともに、防災・安全機能も確保されたことから、所期の目標が達成されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。</p> <p>□「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時期： 年度 ・ 方法： 	<p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈 有 ・ 無 〉</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈 有 ・ 無 〉</p>
<p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果) なし</p>	<p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <p>(9) その他特筆すべき事項 〈 有 ・ 無 〉</p> <p>なし</p>

3. 添付資料シート（1）

位置図

省略

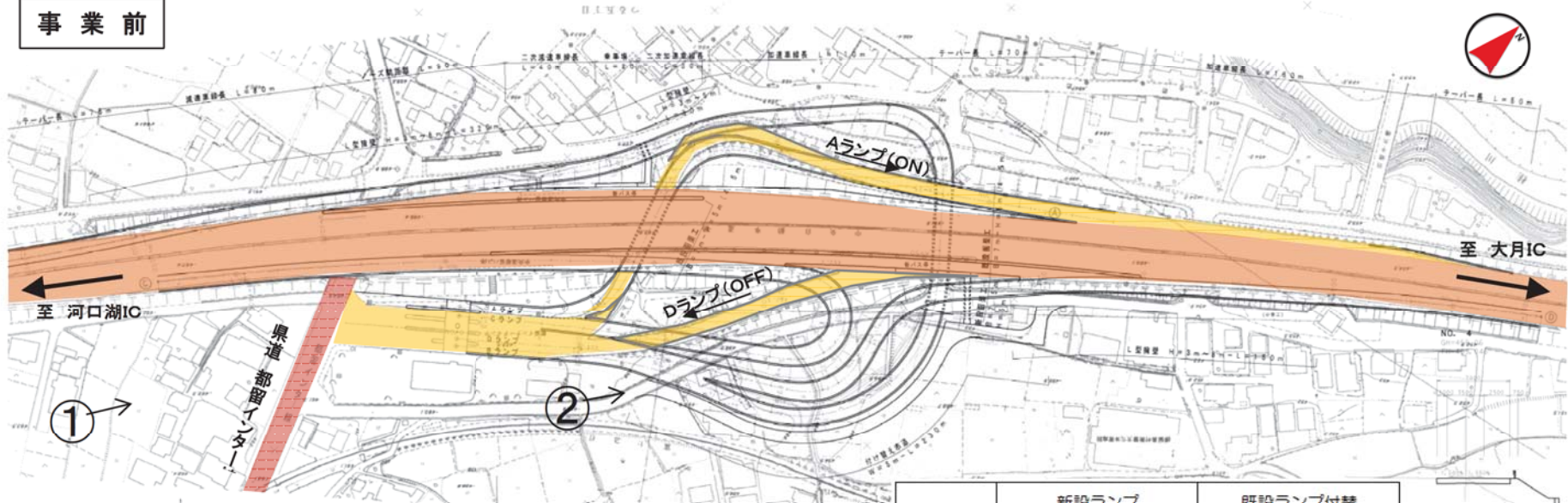
標準横断面図



3. 添付資料シート (2)

平面図

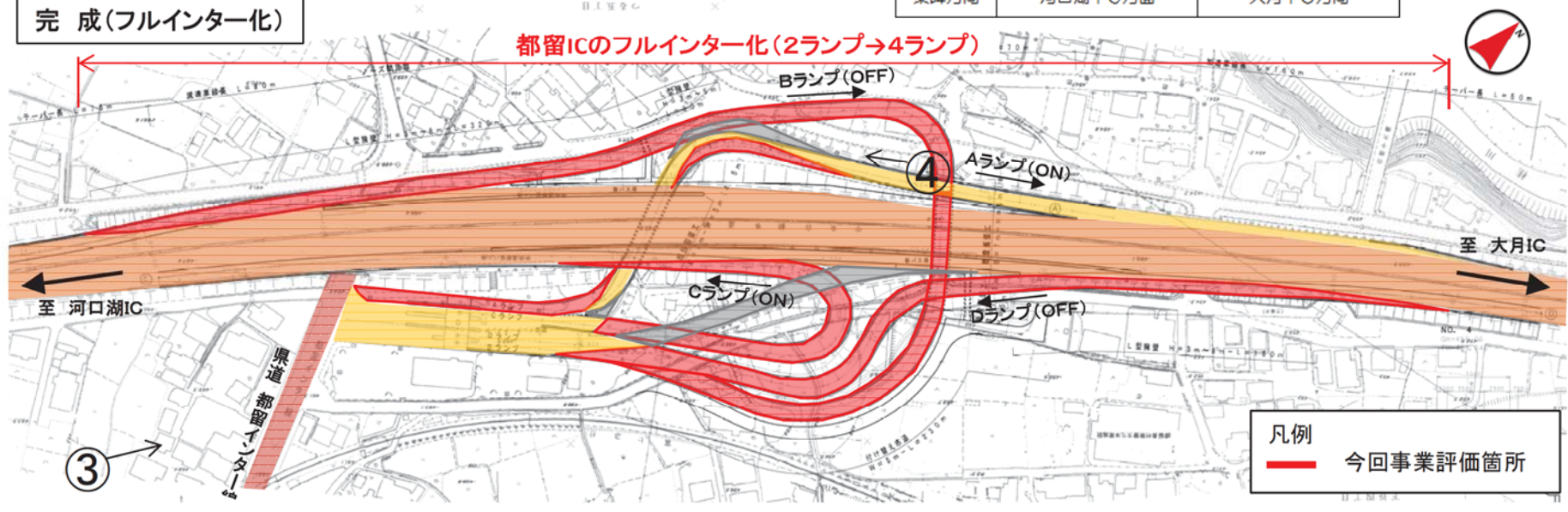
事業前



	新設ランプ		既設ランプ付替	
乗降方向	Bランプ (OFF)	Cランプ (ON)	Dランプ (OFF)	Aランプ (ON)
	河口湖 C方面		大月 C方向	

完成(フルインター化)

都留ICのフルインター化(2ランプ→4ランプ)



凡例
— 今回事業評価箇所

①都留IC着手前



④都留ICフル化供用状況



②都留IC着手前



③都留ICフル化供用状況

